

※2  
**エコフィードの事業化に向けて**

学校給食やレストランから出る食べ残したパンやご飯などの食品残さや調理くずを乾燥させて家畜類の飼料とするエコフィードの事業化はこれから間違いなく脚光を浴びてくる取り組みだと思えます。福岡市は焼却処分されていた学校給食の食べ残しを飼料にすることを試験的に実施することを教育委員会が去る9月18日に新聞紙上で発表しました。

前原市は九州大学との連携で食品残さを畜産用飼料にするための実証実験に取り組みだしたところ。いろいろな問題が抽出され解決策を見出した時、循環型社会が見えてきます。

家庭での生ゴミの水切りの実行と焼却処分されている生ゴミの再利用が軌道に乗れば、我々市民にとってもいろいろな良い効果が生まれます。

我々市民もゴミを出す時は分別や水切りを積極的に行い、次にはゴミ自体出すのを減らす生活を心掛けたいですね。子、孫たちのためにも…。

\*\*\* 水切りにはこんな効果が \*\*\*

一般に生ゴミには約80%前後の水分が含まれています。仮に水切りの励行を心掛け、半分の水分を減らすことができたとしても一年間で約2,920tの生ゴミが減ることになります。ゴミ処理にかかる燃料費は1t当たり8,000円かかっています。ということは約2,300万円の燃料費節約が期待できるのです。

用語解説 ※1 バイオマス…動植物から生まれた再生可能な有機性資源  
※2 エコフィード…食品残さ等から作られた乾燥飼料

元氣な前原・住みたい前原にするために、皆様のご意見、ご要望をお聞かせください。

**小島忠義事務所**

〒819-1112 福岡県前原市浦志二丁目5-20

TEL(092)322-0155

FAX(092)322-4900

E-mail:kojima-tadayoshi@iwa.bbq.jp

小島忠義の **“かけ橋”**  
議会通信 Vol.8



爽りの秋を迎えスーパー等の店頭では、ぶどう、梨、みかん、栗等一年で最も沢山のくだものが並ぶいい時期になりました。田んぼに目を移すと黄金色に輝く稲穂が頭を垂れて収穫も始まりました。

汚染米問題は全くひどい話ですね。日本人の良心はどうなったんだろうと怒りを越してあきれられるばかりです。影響の拡大は予想がつきません。

経済の建て直しと食の安全確保は国の最重要課題です。解散総選挙が近づいています。どこが政権を担うことになっても強い信念とリーダーシップで国民本位の政治を望むのは国民の願いです。



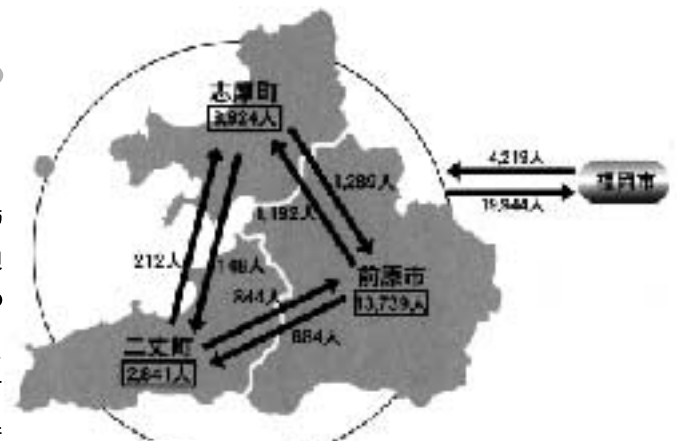
**“糸島市”誕生の条件整う！**

糸島の起源は明治にさかのぼり、明治29年7月の郡制施行の「怡土郡」「志摩郡」が合併し糸島郡となりました。当時糸島郡内には14の村がありましたが、昭和30年の合併により前原町・二丈村・志摩村となり又昭和40年4月に二丈町・志摩町が誕生し、平成4年10月に前原町が市政を施行し前原市となり現在に至ります。

**合併の必要性**

(1)日常生活圏の拡大

交通網の発達などにより糸島1市2町間を始め福岡市への通勤や買い物など自分の住む市や町を越えて拡大しています。こうしたことから安全・安心の町づくりはもちろんのこと、高度化、多様化する住民のニーズに対応するため、また環境問題、



※平成17年国勢調査  
○人数は15歳以上就業者で、□の人数は自市町内就業者。  
矢印の人数は、相互間で移動している就業者数

交通安全などは糸島1市2町の共通課題です。その対策を効果的・効率的に実施するには広域的に対応する必要があります。